

 2020 年度

教養深化プログラム

開講科目 シラバス

北海道大学シラバス

■ 科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

■ 講義題目

教養深化特別演習（基礎）Ⅰ

■ 責任教員（所属）

谷古宇 尚（大学院文学研究院）

■ 担当教員（所属）

谷古宇 尚（大学院文学研究院）

■ 科目種別	大学院共通授業科目			■ 他学部履修等の可否	条件付き可
■ 開講年度	2020	■ 期間	2 学期（秋ターム）	■ 時間割番号	101192
■ 授業形態	演習	■ 単位数	1	■ 対象年次	～
■ 対象学科・クラス				■ 補足事項	
■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5110				
■ 大分類コード	■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■ レベルコード	■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■ 中分類コード	■ 中分類名称				
1	人文科学				
■ 小分類コード	■ 小分類名称				
1	芸術学				

■ 言語

日本語で行う授業

■ 実務経験のある教員等による授業科目

■ キーワード

古典, 人文学, 学際性

■ 授業の目標

大学院生は自分の専門分野の中で課題を設定して研究を行うが、人文学や社会科学の専門分野は本来であれば別々に孤立したものではなく、方法論や取り扱う素材など共通する点、あるいは相互に参照すべき点があるはずである。

本授業は、こうしたとに気づく機会を与えてくれる古典的な著作を読み議論する。

■ 到達目標

自分の専門と異なる分野の著作からも重要な視点を学び、自分の研究をより豊かなものとするができるようになるとともに、幅広い文脈の中で、あるいは社会とのかかわりの中で自分の研究を位置づけられるようになる。

■ 授業計画

1. ガイダンス
2. オギュスタン・ベルク『風土の日本』
3. アンリ・フォション『かたちの生命』
4. クロード・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』
5. 芳賀徹『絵画の領分—近代日本比較文化史研究』
6. 李恢成『サハリンへの旅』
7. 下村寅太郎『アッシジのフランス研究』
8. まとめ

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

予習：テキストを読み、授業中の議論に備える。

復習：授業の内容を自分でまとめる。

■ 成績評価の基準と方法

発表40%、議論への参加30%、レポート30%。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

教養深化プログラム生に限り履修を認める。

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

■ 更新日時

北海道大学シラバス

■ 科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

■ 講義題目

教養深化特別演習（基礎）Ⅱ

■ 責任教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

■ 担当教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

■ 科目種別	大学院共通授業科目			■ 他学部履修等の可否	可
■ 開講年度	2020	■ 期間	1 学期（夏ターム）	■ 時間割番号	101193
■ 授業形態	演習	■ 単位数	1	■ 対象年次	～
■ 対象学科・クラス				■ 補足事項	
■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5140				
■ 大分類コード	■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■ レベルコード	■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■ 中分類コード	■ 中分類名称				
1	人文科学				
■ 小分類コード	■ 小分類名称				
4	史学				

■ 言語

日本語で行う授業

■ 実務経験のある教員等による授業科目

■ キーワード

教養、古典、人文学

■ 授業の目標

すぐれた作品・文献で多くの人に長く読み継がれてきたものとしての一般教養的な「古典」が文化や知性の源泉であるように、学術領域においても研究の根幹を形作る、基本文献としての専門的「古典」があるはずである。この授業では、人文科学の諸領域を中心に講義の「古典」と呼んで良いような文献を読み、新しい知的世界の扉を開く体験を重ねていく。

少数の受講者間での内容報告と討論をつうじて、自分の専攻とは異なる他分野の「古典」について理解し説明する能力を培う。

■ 到達目標

- 1) 自分の専攻の「古典」や、自分の専攻とは異なる他分野の「古典」を、精確に読解することができる。
- 2) 自分の専攻の「古典」を、専攻の異なる他者に対して正確に分かりやすく説明することができる。

3) 自分の専攻とは異なる他分野の「古典」を、他者に対して正確に分かりやすく説明することができる。

■ 授業計画

- 第1回 ガイダンス：古典を読む意味とは何か。古典とは何か。
- 第2回 丸山眞男『日本の思想』
- 第3回 柳田国男『明治大正世相編』
- 第4回 福田恒存『人間・この劇的なもの』
- 第5回 白川静『漢字』
- 第6回 石川九楊『筆蝕の構造』
- 第7回 中村真一郎『文章読本』
- 第8回 総括

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

【予習】資料を読んで内容を理解すること。

【復習】講義内容を踏まえて、資料を再読すること。

■ 成績評価の基準と方法

日常の学修態度と、最終回で課すレポートによる総合評価。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

[『日本の思想』 / 丸山眞男：岩波書店, 1961, ISBN:9784004120391](#)

[『明治大正世相編』 / 柳田国男：講談社, 1993, ISBN:4061590820](#)

[『人間・この劇的なもの』 / 福田恒存：新潮社, 1960, ISBN:4101216029](#)

白川静『漢字』岩波書店、1970年、ISBN-10: 4004120950 ISBN-13: 978-4004120957 石川九楊『筆蝕の構造』筑摩書房、2003年、ISBN-10: 4480087346 ISBN-13: 978-4480087348 中村真一郎『文章読本』新潮社、1982年、ISBN-10: 4101071039 ISBN-13: 978-4101071039

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

履修者への連絡手段として、ELMSポータル(教育情報システム) (Educational Information System)を使用するので、履修者はあらかじめ、ELMSのIDを取得し、メールアドレスを登録しておく必要がある。

教養深化プログラム 教養深化科目群 教養深化特別演習(基礎)「古典を読む(2)」に該当する講義である。

■ 更新日時

2020/01/09 17:27:20

北海道大学シラバス

■ 科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

■ 講義題目

教養深化特別演習（基礎）Ⅲ

■ 責任教員（所属）

佐藤 健太郎（大学院文学研究院）

■ 担当教員（所属）

佐藤 健太郎（大学院文学研究院）

■ 科目種別	大学院共通授業科目			■ 他学部履修等の可否	可
■ 開講年度	2020	■ 期間	2学期（冬ターム）	■ 時間割番号	101194
■ 授業形態	演習	■ 単位数	1	■ 対象年次	～
■ 対象学科・クラス				■ 補足事項	
■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5140				
■ 大分類コード	■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■ レベルコード	■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■ 中分類コード	■ 中分類名称				
1	人文科学				
■ 小分類コード	■ 小分類名称				
4	史学				

■ 言語

日本語で行う授業

■ 実務経験のある教員等による授業科目

■ キーワード

古典、人文学

■ 授業の目標

人文学の著作の中には、研究者のみならず幅広い読者によって長く読み継がれてきた「古典」ともいえるものがある。人間の歴史・文化・社会についての深い理解へと読者を誘ってくれるこれらの「古典」を受講者全員で読みながら、現代社会を生きていくための教養を身につける。

■ 到達目標

自分自身の専門分野のみならず様々な分野の人文学の知を通して、現代社会を広い視野から理解し論じることができるようになる。

■ 授業計画

初回授業でガイダンスを行い、その後は各回に一点ずつ古典を取り上げる。各回の担当者は、内容の概略を報告した上で、授業中のディスカッションでとりあげたい論点を提示してもらう。提示された論点を中心に受講者全員でディスカッションをおこなう。

- 1 ガイダンス
- 2 伊東俊太郎『近代科学の源流』を読む
- 3 E.W.サイード『オリエンタリズム』を読む
- 4 川田順造『無文字社会の歴史』を読む
- 5 白杵陽『見えざるユダヤ人』を読む
- 6 片倉もとこ『イスラームの日常世界』を読む
- 7 杉山正明『遊牧民から見た世界史』を読む
- 8 まとめ

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

テキストの綿密な予習が不可欠である。

■ 成績評価の基準と方法

担当回の報告内容、授業中のディスカッション、および期末レポートにより評価する。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

初回授業時に取り上げる文献を配布する。

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

教養深化プログラム生のみ履修を認める。

■ 更新日時

2020/01/14 11:29:43

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

教養深化特別演習（基礎）IV

責任教員（所属）

中村 三春（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

中村 三春（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	2学期（秋ターム）	時間割番号	101195
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_HSS 5120				
大分類コード	大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
レベルコード	レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
中分類コード	中分類名称				
1	人文科学				
小分類コード	小分類名称				
2	文学				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

古典 文化人類学 ナショナリズム 哲学 フェミニズム 文学

授業の目標

古典作品を読み解き、その内容を理解して身につけるとともに、自分の専攻テーマとの関わりにおいて独自に展開することができる。

到達目標

古典作品を読解し、読解内容を書評形式で文章にまとめ、効果的にプレゼンテーションすることができる。他の発表者の発表内容についての確にコメントし、自分の担当内容を最終レポートに適切にまとめることができる。

■ 授業計画

- 1 ガイダンス：古典を読む意味・古典とは何か
- 2 山口昌男『文化と両義性』を読む
- 3 B・アンダーソン『想像の共同体』を読む
- 4 唐木順三『無常』を読む
- 5 野矢茂樹『語りえぬものを語る』を読む
- 6 ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』を読む
- 7 ホルルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』を読む
- 8 総括・レビューと推敲

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

【予習】あらかじめテキストの作品を読んでおくこと（毎週1時間）。担当者は事前に演習内容を準備すること。

【復習】感想レポートを執筆し提出すること（毎週1時間）。

■ 成績評価の基準と方法

【基準】

平常点：感想レポートの提出の有無によって評価する。

期末評価：平常点に加え、最終レポートの内容的水準によって評価する。

【方法】

平常点（30%）：毎回の感想レポート提出

最終レポート（70%）：担当課題についてのレポート提出

いずれもELMSを利用して提出する。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

取り上げる作品の該当箇所のコピーを配付する。

■ 講義指定図書

[文化と両義性, ISBN:4006000162](#)

[想像の共同体, ISBN:487188516X](#)

[無常, ISBN:9784121100160](#)

[語りえぬものを語る, ISBN:9784062170956](#)

[ジェンダー・トラブル, ISBN:4791757033](#)

[啓蒙の弁証法, ISBN:9784003369210](#)

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

<http://projectm.s500.xrea.com/>

「レポート・論文の書き方」など「研究アドヴァイス集」を掲載。

■ 備考

教育情報システムELMSを利用する。

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

北海道大学シラバス

■ 科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

■ 講義題目

教養深化特別演習（基礎）Ⅴ

■ 責任教員（所属）

加藤 重広（大学院文学研究院）

■ 担当教員（所属）

加藤 重広（大学院文学研究院）

■ 科目種別	大学院共通授業科目			■ 他学部履修等の可否	不可
■ 開講年度	2020	■ 期間	2学期（冬ターム）	■ 時間割番号	101196
■ 授業形態	演習	■ 単位数	1	■ 対象年次	～
■ 対象学科・クラス				■ 補足事項	
■ ナンバリングコード	IGS_HSS 5130				
■ 大分類コード	■ 大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
■ レベルコード	■ レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
■ 中分類コード	■ 中分類名称				
1	人文科学				
■ 小分類コード	■ 小分類名称				
3	言語学				

■ 言語

日本語で行う授業

■ 実務経験のある教員等による授業科目

■ キーワード

文章技巧, 文書作成, 構成

■ 授業の目標

実社会で求められる基礎能力の一つに、調査資料の作成・報告書や企画書の作成など文書の作成技能がある。専門論文の執筆でもこの種の文書の作成でも基礎にあるのは「達意の日本語を書く力」であるが、論文に一定の方法や決まりがあるように、個々の文書の作成方法にも方法論がある。その基礎となる考え方や方法論、表現技巧などを学ぶことで、広範な実務的技能的中心となる「書く力」を身につけることを目標とする。

■ 到達目標

実際に文章を書くことで、表現形式とそれが解釈に及ぼす効果を学ぶ。また、文書の効果的な表現に必要な方法を活用しながらさまざまな文章を書く訓練をおこなう。段階的な訓練によって、目的の異なる文書についての考え方や効果的な表現の方法についてその基礎が身につくことを

到達目標とする。

■ ■ 授業計画

- 第1回 表現技巧とは何か、文書とはなにか（全体のガイダンス）
- 第2回 文章表現の形式と表現法の基礎知識、この文章はどこがまずいのか、見てみよう。
- 第3回 構成と論理と説得力・感性と訴求力・冗長性の制御・メモの技術
- 第4回 日本語の特性と文章作成・必要な情報と表現（理解・提案・報告）
- 第5回 文書に求められる文体と叙法、「私」のない叙述と「私」を際立たせる表現
- 第6回 比喻と引用、表現性と明晰性、例え話のリスク、挿話の技法、抑制と制御の構成
- 第7回 反論と共感、実用性と実務性、読み手に抱かせる感情を予測しながら書く
- 第8回 総括

■ ■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

事前に指示をおこなう。課題提出がある。

■ ■ 成績評価の基準と方法

演習の中での取り組み（25%）、各個別課題の提出状況と完成度(50%)、演習における活動状況など(25%)の平素点を点数化して評価をおこなう。

■ ■ 有する実務経験と授業への活用

■ ■ 他学部履修の条件

■ ■ テキスト・教科書

■ ■ 講義指定図書

■ ■ 参照ホームページ

■ ■ 研究室のホームページ

■ ■ 備考

この授業は、教養深化プログラムの受講生しか受講できない。また日本語を母語とする学生を対象とする授業である。

■ ■ 更新日時

2020/01/31 16:35:09

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

教養深化特別演習（基礎）VI

責任教員（所属）

藏田 伸雄（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

藏田 伸雄（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	条件付き可
開講年度	2020	期間	1 学期	時間割番号	101197
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_HSS 5120				
大分類コード	大分類名称				
IGS_HSS	大学院共通授業科目（人文社会科学系）				
レベルコード	レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
中分類コード	中分類名称				
1	人文科学				
小分類コード	小分類名称				
2	文学				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

専門知、プレゼン、質問力、理解力、伝えること、説明術

授業の目標

先端的で高度な研究成果は、その専門性と難解さゆえに社会全体で理解してもらえる範囲を狭めることにもなる。専門的で高度な内容を、それほど知識を持たない人たちに伝え、価値を認めてもらうには、専門家以外の人に理解してもらえる伝える技能が必要である。それだけでなく、自分の専門分野以外の知識を理解してわかりやすく他者に伝える技術は、専門の世界を専門以外の世界に伝える「媒(なかだち)」の役割を担うもので、これからの時代に必要とされる技能である。そのような技能を養うことを目的とする。

到達目標

研究者のコミュニティ（学会や研究会）とは異なる、開かれた世界への発信を念頭に、専門的知識を誰にでもわかるように伝える技能を実習的に涵養する。具体的には自分の専門的知識を説明する力、他の専門分野の知識を理解する質問力・取材力、それを他者に伝えるプレゼンテーション

ンのスキルと文章力を身につける。

具体的には科学コミュニケーター的能力・技能に相当する、「人文コミュニケーター」の能力や技能を養うことを目標とする。専門的な話を聞き、再構成する「取材技能」、それをわかりやすく文章で伝えていく「表現技能」を習得することを目指す。また自分が理解した内容を効果的に伝えるためのスライド作成技術も実践的に身につける。

■ 授業計画

「専門知の面白さを伝えるプレゼン術」

- 1自分の専門知をわかるように加工する(ガイダンス)
- 2自分の専門知について説明する(プレゼンテーション)・パワーポイントなどの効果的使用術
- 3自分の専門知を活用するための視点と技法, 理解の裾野を広げる展開と実習(プレゼンテーション)
- 4他の専門知を理解するための取材術と質問技法・聞く技術(インタビュー)
- 5他の専門知を正確に理解し, うまくまとめるための実習(インタビュー)
- 6他の専門知をうまく伝えるための構成と技法, 外に広げるための実習(スライド作成)
- 7他の専門知を効果的に伝えるための説明術と話す技法(プレゼンテーション)
- 8総括・レビュー

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

受講生はまず自分の研究内容について簡単に発表してもらおう。この準備のために1-2時間必要になる。さらに他の研究者(受講生)に取材し、その内容をまとめて発表してもらおう。そのための作業に3-4時間必要になると思われる。終了後には成果をレポートにまとめ提出してもらおう。そのためにも4-5時間は必要になると思われる。

■ 成績評価の基準と方法

自分の専門知についてのプレゼンテーション(15%),課題の完成度(40%),他の受講生の研究内容に関するプレゼン(35%),授業時の取組(10%)

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

教養深化プログラム登録生に受講を限定する。

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

[プレゼンテーションZen\(第2版\) / ガー・レイノルズ著 ; 熊谷小百合訳, 2014, ISBN:9784621066034](#)

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

教養深化プログラム登録生に受講を限定する。

■ 更新日時

2020/01/30 01:13:52

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

教養深化特別演習（総合）I

責任教員（所属）

宮内 泰介（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

宮内 泰介（大学院文学研究院）

平川 全機（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	1学期（夏ターム）	時間割番号	101198
授業形態	演習	単位数	2	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード					
大分類コード	大分類名称				
レベルコード	レベル				
中分類コード	中分類名称				
小分類コード	小分類名称				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

授業の目標

フィールドスタディを通じて、地域への理解力、相互理解力、チーム形成力、信頼構築力、調整力を身に付ける。

到達目標

北海道ニセコ地区についての事前文献学習およびフィールドスタディを通じて、地域の自然・歴史・文化・社会を理解し、そこから問題の構造化、解決能力などを身につける。

■ 授業計画

ニセコ地区でのフィールドスタディを実施する。事前に文献学習およびディスカッションを行った上で、3日間にわたって、現地で視察やインタビューなどの地域学習を行う。さらに、それをもとにした、グループディスカッションおよび報告を行う。

○事前学習(1日)

- 1) ガイダンス
- 2) 資料調査
- 3) インタビュー項目の作成

○現地学習1日目

- 2-5) グループごとに現地視察とインタビュー

○現地学習2日目

- 1-5) グループごとに現地視察とインタビュー

○現地学習3日目

- 1-2) グループディスカッション・報告準備
- 3-4) 報告

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

フィールドスタディの準備をする。

■ 成績評価の基準と方法

報告会でのプレゼンテーションとレポートで評価する。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

この授業は、以下の学生のみが受講できる。

- (1) 教養深化プログラム参加学生であること。
- (2) 教養深化特別演習(基礎)の単位を修得していること。

■ 更新日時

2020/01/28 19:13:15

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

教養深化特別演習（総合）Ⅱ

責任教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	通年	時間割番号	101199
授業形態	演習	単位数	2	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 9220				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
9	その他（海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目）				
中分類コード	中分類名称				
2	キャリアマネジメント				
小分類コード	小分類名称				
2	インターンシップ				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

インターンシップ

授業の目標

教養深化プログラム 教養深化科目群 教養深化特別演習（総合）Ⅱ「インターンシップ」に該当する講義である。
本講義の履修を希望する学生は、教養深化プログラムに参加しなければならない。

官公庁、企業が実施するインターンシップに参加することで、修士課程、博士後期課程修了後のキャリア形成について具体的な将来像を描くことが出来る。

到達目標

・官公庁・企業が実施するインターンシップに参加して、修士課程、博士後期課程で学修・研究する事柄を社会で活かす可能性について反省することで、自己の学修・研究の意義を明確に自覚することが出来る。

・修士課程、博士後期課程修了後のキャリア形成に於いて、アカデミック・ポスト以外にも自己の知識と能力を発揮出来る可能性があることを自覚する。

■ 授業計画

○ガイダンス (90分)

○インターンシップ You can be aware of the possibility of exerting your own knowledge and ability in society. インターンシップ
1日8時間労働で5日以上インターンシップに参加する。

○総括 (4コマ360分。ただし、履修者の人数によって増えることがある。減ることはない。)

各自のインターンシップ体験を履修者および教養深化プログラム参加者(次年度履修予定者)に対してプレゼンテーションする。質疑応答を通じて履修者個人のインターンシップ体験を共有し教養深化プログラム参加学生全員のキャリア形成に資する。

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

- 1) インターンシップを実施する企業や官公庁の業務内容について調べておく。
- 2) インターンシップ体験プレゼンテーションのため、記録をつけておく。
- 3) インターンシップ体験プレゼンテーションの資料を作成する。

■ 成績評価の基準と方法

プレゼンテーション (50%) およびレポート (50%) により評価する。

単位認定を受けようとするものは、インターンシップに参加するだけでなく、プレゼンテーションを行い、レポートを提出しなければならない。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

<https://www.let.hokudai.ac.jp/general/cultural-enrichment-program>

■ 備考

教養深化プログラム参加学生であることを履修条件とする。

■ 更新日時

2020/01/13 14:44:27

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

教養深化特別演習（総合）Ⅲ

責任教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	2学期（秋ターム）	時間割番号	101200
授業形態	演習	単位数	2	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 5150				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
中分類コード	中分類名称				
1	学術コミュニケーション・リテラシー				
小分類コード	小分類名称				
5	プロジェクトマネジメント				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

共同作業、相互理解力、チーム形成力、信頼構築力、調整力

授業の目標

教養深化プログラム 教養深化科目群 教養深化特別演習（総合）Ⅲ「修学旅行の企画を立てる」に該当する講義である。

履修希望者は教養深化プログラムに参加しなければならない。

教養深化プログラムで習得した能力を、具体的な事例や自身の研究に関連づけた実践を通じて向上させ、全体を総合する力を身につける。共同作業を通じて相互理解力、チーム形成力、信頼構築力、調整力を身につける。

到達目標

- 1) 役割演技を通じて、他者の視点から事物を捉える能力と他者のために考える能力を培う。
- 2) そのため、履修者は中学校教諭として、修学旅行の企画立案を行う。旅程をどうするか、見学先をどう選定するか、学修活動としての説明

が必要である。くわえて、中学生の特性を考慮に入れながら、安全性・経済性・効率性などを現実的に考えなければならない。
3) 以上の実践を通じて、他者の視点から他者のために考える能力を身につける。

■ 授業計画

○三日間の集中講義形式で実施する。令和二年度の場合、具体的な開催日は追って支持する。

○第一日目

- (1) ガイダンス シナリオの説明（都内区立中学校、札幌小樽を見学と想定）、グループ分け
- (2-4) グループ作業 資料収集、企画立案、説明資料作成
- (5) プレゼンテーション 各グループの企画内容をプレゼンテーションする

○第二日目

- (1-5) 見学先の現地検証

○第三日目

- (1-3) 見学先の現地検証 (4) 企画再考 (5) 最終プレゼンテーションおよび総括

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

札幌市と小樽市の観光案内を熟読すること

■ 成績評価の基準と方法

プレゼンテーションおよびレポートで評価する。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

履修条件は下記の通り。

- (1) 教養深化プログラム参加学生であること。
- (2) 教養深化特別演習（基礎）の単位を修得していること。

■ 更新日時

2020/01/13 15:23:44

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

サイエンスリテラシー特別演習 I

責任教員（所属）

藏田 伸雄（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

藏田 伸雄（大学院文学研究院）

種村 剛（高等教育推進機構）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	条件付き可
開講年度	2020	期間	2学期（秋ターム）	時間割番号	101189
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 5100				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
中分類コード	中分類名称				
1	学術コミュニケーション・リテラシー				
小分類コード	小分類名称				
0	科学教育				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

科学コミュニケーション、科学と社会、科学と人文科学・社会科学、インタビュー、記事作成

授業の目標

自然科学は社会と様々な点で社会と接点をもつが、その接点から科学を非-専門家に伝えていく場面で、人文社会科学の素養は有益である。受講生が人文社会科学の知見を生かしつつ、科学を伝えることができるようになることを目的とする。

到達目標

- ・人文科学・社会科学の専門的知識を実践的に用いようとする意識を身につける。
- ・自分の専門的知識をもとにした認識のフレームワークを用いて科学的知識(あるいは専門外の知識)を伝える力を身につける。
- ・最先端の科学についての資料を読み、科学者への質問を考え、科学者にインタビューをして、それを文章や資料にまとめる力を身につける。

- ・自分が理解しづらい内容について、どのように質問すれば理解できるようになるのかを考えつつ質問する力を身につける。
- ・科学について自分の理解した範囲の内容を的確に伝えるスキルを身につける

■ 授業計画

北大を代表する第一線の科学者の講義を聴き、その後科学者に鍵となる質問を考える。その後、科学者に質問に答えてもらいつつインタビューし、インタビューと科学者とのディスカッションをもとに「科学と社会」との関わりについての科学記事を書くことを目標にする。受講生は自分の専門を意識しつつ、記事を作成する(思想としての科学、科学と宗教、科学とナラティブ、科学と歴史、研究者と社会、研究者の認知、科学と経済、科学と法、科学と教育、科学とメディア等)。また記事の構成、レイアウトなどを考えるかも身につける。

1. ガイダンス
2. インタビューのスキルと心構え
3. 科学者による講義
4. 科学者向け企画書作成と問の作成
5. 科学者へのインタビューと科学者を困らせたディスカッション
6. インタビューをまとめる/アウトライン相互チェック
7. ドラフト相互チェック
8. 発表と相互評価

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

企画書の作成と質問の作成の準備には2-5時間程度が必要になると思われる。さらに記事の作成のために5-10時間は必要になると思われる。

■ 成績評価の基準と方法

作成された記事に対する評価、最後のプレゼンテーションに対する評価、さらにインタビューの際の態度、ディスカッションへの貢献度をもとに評価する。評価には受講生の相互評価を取り入れる。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

履修者は「教養深化プログラム」登録している学生に限定する。

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

教養深化プログラム生として認められた者に限り履修登録を認める。

■ 更新日時

2020/01/30 01:12:26

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

サイエンスリテラシー特別演習Ⅱ

責任教員（所属）

大沼 進（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

大沼 進（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	2学期（秋ターム）	時間割番号	101190
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 5110				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
中分類コード	中分類名称				
1	学術コミュニケーション・リテラシー				
小分類コード	小分類名称				
1	情報教育				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

サイエンスリテラシー、ゲーミング・シミュレーション、合意形成、社会力学

授業の目標

ゲーミングへの参加・体験を通じて、社会の様々な事象を理解するということはどういうことかを実感し、合意形成などの社会問題解決を考える上で、ゲーミング・シミュレーションというツールがどのように役に立てるかの理解に結びつける。以上を通じて、科学的な観点から批判的思考ができるようになる素地を涵養する。

到達目標

合意形成が求められる社会問題の解決には、様々な価値や考え方の折り合いが必要だが、どのような価値が折り合いがつかず、そのようなときにどのような相互作用が生じ、そして社会全体にどのような帰結をもたらされるのかといった、個人内の思考や行動を越えたダイナミクス

と、その相互作用のプロセスを理解する必要がある。このような理解をする上で、ゲーミングという手法が複雑な問題の直感的理解の手助けする有効なツールの一つであることを体感し、そこでなされる科学的思考に基づく批判的思考が涵養されることを到達目標とする。

■ 授業計画

受講者は毎回異なるテーマのゲームをプレイする。ゲームをプレイした後に、そのゲームがどのような状況を模しているのか、なぜこのようにゲームがデザインされているのかを理解していく。なお、ゲームをプレイする際には、コンピュータは使わないし、数学や数式のスキルも要求されない。

1. ガイダンス (アイスブレイク) , 2. 共有地の悲劇, 3. coordination問題, 4. 社会的ジレンマと二次的ジレンマ, 5. 格差と階層化, 6. 説得とリスク・コミュニケーション, 7. 利害の異なるステークホルダーの合意形成, 8. 無知のヴェール

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

復習に重点が置かれる。各課題に関連する内容を調べたり取りまとめたりすることが求められる。

■ 成績評価の基準と方法

ゲーム及びゲーム後のディブリーフィングにおける議論への参加度(80%)、期末レポート(20%)による。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

<https://lynx.let.hokudai.ac.jp/~numazemi/>

■ 備考

■ 更新日時

2020/01/11 13:50:35

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（教育プログラム）：教養深化プログラム

講義題目

サイエンスリテラシー特別演習Ⅲ

責任教員（所属）

大沼 進（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

大沼 進（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	1 学期	時間割番号	101191
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 5000				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
5	大学院（修士・専門職）専門科目（基礎的な内容の科目）、大学院共通授業科目				
中分類コード	中分類名称				
0	複合科学				
小分類コード	小分類名称				
0	デザイン学				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

プレゼンテーションスキル、視覚表現、画像・映像処理, Creative Cloud

授業の目標

プレゼンテーション、各種デザインから写真・動画投稿にいたるまで、デジタルコンテンツのビジュアル表現に必要な基礎技術を理解し、実際に活用できるようにします。

到達目標

- ・ビジュアル表現を構成する要素がどのようなものであるかを理解する。
- ・文字表現、写真表現、色彩設計、レイアウト技法などの各構成要素で使用されるデジタルクリエイティブ技術を理解する。
- ・画像編集、レイアウト、映像コンテンツの制作などを体験し、ビジュアル表現の活用方法を体感する。

■ 授業計画

講師にアドビシステムズの近藤祐爾氏を迎えておこなう。

1回2コマ、計4回実施する。

- 1) ビジュアル表現概論（講義）・・・ビジュアル表現を構成する要素を俯瞰します。文字表現、写真表現、色彩設計、レイアウト技法、導線設計、インタラクションなどの構成要素を支える技術の役割を理解します。
- 2) 構成+レイアウト+造形+色彩（演習）・・・ビジュアル表現の全体構成について学びます。印刷物やデジタルコンテンツにおけるレイアウト技法を学び、各構成要素がどのように機能するのかを理解します。
- 3) 画像処理概論（講義）・・・現在のビジュアル表現で特に多用される写真表現、画像処理について学びます。画像形式ごとの特性や画像処理の仕組みについて理解します。
- 4) 画像処理（演習）・・・画像処理の基礎として、色調補正、画像加工、切り抜きなどの画像編集の演習を行います。
- 5) タイポグラフィ概論（講義）・・・文字表現としてのタイポグラフィについて理解します。フォント形式、書体の歴史や使用法、組版や文字化けについて学びます。
- 6) タイポグラフィ（演習）・・・タイポグラフィの実践演習を行います。書体（フォント）の選択、サイズや字間・行間の調整、文字と画像の配置方法などによる視覚的影響について学びます。
- 7) 映像制作概論（講義）・・・映像コンテンツを支えるデジタル技術の基礎について学びます。映像編集の基本的な考え方、特殊効果、アニメーションや映像をデジタルで扱う際に重要となるエンコード技術について理解します。
- 8) 映像制作（演習）・・・撮影された映像素材や静止画を用いて、基本的なカット編集と静止画と文字によるモーショングラフィック・アニメーションを演習を通じて学びます。

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

その日の授業で行った内容について、自身の興味・関心に即して応用を試みることが求められる。

■ 成績評価の基準と方法

演習課題の提出物により評価する。以下の評価軸に沿って採点する。

- (デザイン：目的合致性) 情報設計をしているか、情報設計通りにビジュアル表現に落とし込んでいるか
- (構成、レイアウト) 内容の伝わりやすさ、印象づけなど意図した構成をしているか、導線設計を意識しているか
- (画像処理) 使用画像が情報設計に適合しているか、適切な画像処理がされているか、適切な画像形式で配置されているか
- (造形) グラフィック要素やアイコン、図版などの造形が適切に作られているか
- (色彩設計) カラーモードが適切か、配色が適切で工夫されているか、色の管理がされているか
- (タイポグラフィ) 文字表現が目的に合致しているか、適切に処理されているか
- (エラー対処) 正しく再現できる納品データになっているか、出力エラーが出ないように作られているか
- (コミュニケーション) 正しく出力するためのコミュニケーションが取れているか、出力仕様書の記入が正しくできているか

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

資料は授業のなかで配布する。参考書は個別に授業内で紹介する。

■ 参照ホームページ

<https://adobe.ly/2FOilQ6>

■ 研究室のホームページ

■ 備考

持ち込みのノートパソコンを必須とする（難しい場合は要相談）。
PCにはCreative Cloudをインストールしておくこと。
詳細はオリエンテーション時に説明する。

■ ■ 更新日時

2020/01/11 13:54:25

北海道大学シラバス

■ 科目名

キャリアマネジメントセミナー

■ 講義題目

■ 責任教員（所属）

佐伯 宏樹（大学院水産科学研究院）

■ 担当教員（所属）

佐伯 宏樹（大学院水産科学研究院）

吉原 拓也（人材育成本部）

■ 科目種別

■ 他学部履修等の可否

可

■ 開講年度

2020

■ 期間

1 学期

■ 時間割番号

044137

■ 授業形態

講義

■ 単位数

2

■ 対象年次

1～2

■ 対象学科・クラス

■ 補足事項

■ ナンバリングコード

■ 大分類コード

■ 大分類名称

■ レベルコード

■ レベル

■ 中分類コード

■ 中分類名称

■ 小分類コード

■ 小分類名称

■ 言語

日本語で行う授業

■ 実務経験のある教員等による授業科目

■ キーワード

キャリアマネジメント（Career Management）、研究マネジメント（Research Management）、MOT（Management of Technology）、すべての仕事に必要な基本スキル（Transferable Skills）、イノベーション（Innovation）、マーケティング（Marketing）、知的財産（Intellectual Property）、プレゼンテーション（Presentation）、アントレプレナーシップ（Entrepreneurship）、発想法（Method of thinking）、コンプライアンス（Compliance）、企業における研究開発（Industrial R&D）、リーダーシップ（Leadership）、グローバル人材（Global Human Resource）

■ 授業の目標

グローバルな視野を持ちイノベーションを興す、将来のリーダーとなる人材を育成する。
社会の様々な仕事環境において共通して必要となる考え方と実践的なスキル（Transferable Skills）を学ぶ。

到達目標

- 1) 大学院での研究活動と社会活動との繋がりをより明確に自覚する。
- 2) 大学院の研究と企業の研究・開発の考え方の違いについて理解する。
- 3) キャリアパスについての意識をより明確に持ち、自己のキャリアマネジメントに活用する。

・大学での研究が発展して社会で実用化されるまでのプロセスと必要となる考え方を学ぶ。企業におけるその実例を学習する。そのためにMOTの手法を取り入れる。さらに、種々の職業で共通して必要となる考え方とスキル(Transferable Skills)を学ぶ。
・企業経験を有する大学教員および企業から招いた実務担当者による講義(15コマ)を通じて、個々の大学院生が深化させている研究活動と、社会における活動(研究・開発・事業化・産業化)との繋がりを明確に理解する。自己の適性と将来の夢やビジョンを勘案し、自己キャリアのデザインと具現化(キャリアマネジメント)を目指す。

授業計画

スケジュール概要：

- 1) 履修希望学生に対してのガイダンス
- 2) 履修登録
- 3) 講義受講(全15コマ;学外・企業からも講師を招聘し、企業における研究開発の最新の事例や考え方を学ぶ。)
- 4) 最終講義終了後 レポート提出

※ 函館キャンパスには双方向の遠隔講義として配信されます。

※ 函館キャンパスでも講義を行い、札幌キャンパスへの中継を予定しています。

注意事項：

受講するには履修届と同時に、Hi-Systemへの登録および登録後、Hi-System上で本講義(イベント)への受講申込が必要。

Hi-System上にアップロードする形式でレポートを提出するため、申込がなければレポート提出不可。

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

講義内容：

ガイダンス、及び、基礎研究から新事業への道

イノベーションを起こす

企業の種類と分析

知的財産権

アントレプレナーシップ

プレゼンテーション

マーケティング

商品創造/新商品開発

発想法

企画書の書き方

企業(1)：先端技術と新規事業

企業(2)：先端技術と新規事業

企業(3)：先端技術と新規事業

企業(4)：先端技術と新規事業

リーダーシップ、まとめ

単位取得のためには、15コマ終了後、レポート提出が必須。

(レポートのテーマについては授業中に発表する)

授業の内容、日時、会場等は、下記ホームページをチェックすること。

http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/cgi-bin/index.pl?page=contents&view_category_lang=1&view_category=1143

準備学習(予習・復習)等の内容と分量

授業前：事前課題を課する場合がある。その場合は授業中に予め周知する。

授業中：講義のポイントや講師への質問をメモすること。

授業後：学習した内容を総動員してレポートを作成し提出する。

成績評価の基準と方法

出席状況、授業における学習 および提出レポートの内容により総合評価する。

秀・優・良・可・不可で評価する。

■ ■ 有する実務経験と授業への活用

■ ■ 他学部履修の条件

■ ■ テキスト・教科書

市販のテキスト・教科書は使用しない。必要に応じて資料を配布する。 Handouts will be distributed as necessary.

■ ■ 講義指定図書

■ ■ 参照ホームページ

<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/S-cubic>

http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/cgi-bin/index.pl?page=contents&view_category_lang=1&view_category=1143

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

■ ■ 研究室のホームページ

<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/S-cubic>

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

■ ■ 備考

教室の収容制限があるため、札幌キャンパスの受講者に関しては履修登録をしても、Hi-Systemでの登録の早いものから350名で締め切る場合があります。

■ ■ 更新日時

2020/03/17 10:00:15

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域

講義題目

ジェネリックスキル特別演習 I

責任教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

吉原 拓也（人材育成本部）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	通年	時間割番号	101201
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 9210				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
9	その他（海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目）				
中分類コード	中分類名称				
2	キャリアマネジメント				
小分類コード	小分類名称				
1	キャリア開発				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

キャリア形成、ジェネリックスキル、知的財産権、プロジェクトファシリテーション、アントレプレナーシップ、交渉学

授業の目標

教養深化プログラム、ジェネリックスキル科目群、ジェネリックスキル特別演習 I キャリア形成（1単位）に該当する講義である。受講希望者は教養深化プログラムに参加しなければならない。

修士課程・博士後期課程修了後のキャリア形成に備えて、ジェネリックスキルを習得する。

到達目標

- ・人材育成本部が主催するキャリアパス多様化支援セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲを受講して、キャリア形成に必要な、知識と技能（知的財産権、交渉学、プロジェクトファシリテーション、アントレプレナーシップなど）について学び、実践することができる。
- ・人材育成本部が主催するA-COLAを受講して、講師から企業活動の実態について学び、キャリア形成の指針として生かすことができる。

■ 授業計画

○ガイダンス（川口・45分）

○キャリアパス多様化支援セミナーは講師手配の都合上毎年変更がある。令和元年度（平成31年度）実績を例示すれば下記のとおりである。

Ⅰ 知的財産権・ガイダンス（20分） ・講演①（60分） ・講演②（60分） ・講演③（60分） ・パネルディスカッション（60分）

Ⅱ プロジェクトファシリテーション・基調講演（40分） ・ファシリテーション演習（140分） ・クロージング&質疑応答（50分）

Ⅲ 交渉学講義（90分） ・演習および質疑応答（180分）

○A-COLAは、企業で活躍する人文・社会科学系大学院の博士課程修了者を講師として招き、博士号取得後のキャリアパスについて知見を広げることを目的として開催される。平成30年度実績を例示すれば下記のとおりである。

・開会挨拶およびガイダンス（30分） ・講演①（45分） ・講演②（45分） ・講演③（45分） ・パネルディスカッション（45分）

なお、講師手配の事情などによりA-COLAを開催できない場合は、人材育成本部が実施する「キャリアマネジメントセミナー（演習）ビジネスマナーの基本と実践」を以てこれにかえる。

○総括（川口・45分）

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

【予習】事前に資料を配付するので、よく読んでから講義に臨むこと。

【復習】講義内容を纏め、レポート作成に備えること。

■ 成績評価の基準と方法

出席とレポートによる総合評価。

なお、単位認定を受けようとするものは、キャリアパス多様化支援セミナーⅠ・Ⅱ・ⅢおよびA-COLAのうち3つ以上に参加しなければならない。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

教養深化プログラムに参加する学生のための講義である。

履修者への連絡手段として、ELMSポータル(教育情報システム) (Educational Information System)を使用するので、履修者はあらかじめ、ELMSのIDを取得し、メールアドレスを登録しておく必要がある。

キャリアパス多様化支援セミナーⅠ・Ⅱ・ⅢおよびA-COLAに参加するためには、講義の履修登録とは別に、人材育成本部のHi-Systemに登録する必要がある。

<https://www2.synfoster.hokudai.ac.jp/Hi-System/public/index.php#top>

北海道大学シラバス

科目名

大学院共通授業科目（一般科目）：複合領域

講義題目

ジェネリックスキル特別演習Ⅱ

責任教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

担当教員（所属）

川口 暁弘（大学院文学研究院）

科目種別	大学院共通授業科目			他学部履修等の可否	可
開講年度	2020	期間	1 学期	時間割番号	101202
授業形態	演習	単位数	1	対象年次	～
対象学科・クラス				補足事項	
ナンバリングコード	IGS_IDS 9220				
大分類コード	大分類名称				
IGS_IDS	大学院共通授業科目（複合領域）				
レベルコード	レベル				
9	その他（海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目）				
中分類コード	中分類名称				
2	キャリアマネジメント				
小分類コード	小分類名称				
2	インターンシップ				

言語

日本語で行う授業

実務経験のある教員等による授業科目

キーワード

インターンシップ事前準備

授業の目標

教養深化プログラム ジェネリックスキル科目群 ジェネリックスキル特別演習Ⅱ「インターンシップ事前準備」（1単位）に該当する講義である。

修士課程・博士後期課程修了後のキャリア形成に備えてインターンシップに参加する際の、事前準備を行う。

到達目標

- 1) キャリアセンターが主催するインターンシップ・プレ研修①、②、③、④を受講する。
- 2) インターンシップに参加するにあたって必要な心構え、マナーを身につける。
- 3) インタビュー、プレゼンテーションの技能を学び、実践することができる。

■ 授業計画

○ガイダンス (90分)

○プレ研修① (5月22日18:20-20:40、2019年度実績以下同じ。2020年度の開催日程は各自キャリアセンターホームページで確認すること。)

就活戦略ガイダンス

○プレ研修② (5月25日13:00-18:00)

プレインターンシップ (インタビュー&プレゼンテーション実践講座)

○プレ研修③ (5月29日18:30-20:30)

エントリーシート対策

○プレ研修④ (7月17日18:30-20:30)

マナー・身だしなみ講習

○総括90分)

■ 準備学習(予習・復習)等の内容と分量

キャリアセンターホームページでプレ研修の内容を把握すること。

■ 成績評価の基準と方法

レポートによる総合評価。

なお、単位認定を受けようとするものは、プレ研修①、②、③、④のうち3つ以上に参加しなければならない。

■ 有する実務経験と授業への活用

■ 他学部履修の条件

■ テキスト・教科書

■ 講義指定図書

■ 参照ホームページ

■ 研究室のホームページ

■ 備考

(1) 教養深化プログラム参加学生であること。

(2) インターンシッププレ研修を受講するには、キャリアセンターのインターンシップシステムに登録の上、就職支援システムから申込みが必要である。

■ 更新日時

2020/01/13 15:09:30